

絆

KIZUNA

中央大学公認会計士会会報 NO. 15

学会会公認会計士会「絆」に寄せて

学校法人 中央大学 理事長
久野修慈



中央大学公認会計士会会報の寄稿に際して、永年に亘り飛躍する会計の分野、広くは、国内、国際経済が激動する会計システム変化の中で社会に貢献され、中大の名声を高められて来られた会員各位に敬意を表する次第です。

弊方、法学部出身ですが、井上達雄先生に知遇を得て、喜びと感動の会計を教えられたと存じます。

幅の広さ、心の広さと深さ、人間の豊かさの中で、井上達雄先生は何の飾り気もない自然体で会計の本質を教えられて来られたと思います。

今思えば、ゴルフに再三誘われ、手ほどきを受けましたが、終わってみればゴルフボールがユーモアに富んで喜んでいる姿に思えたものです。貸借対照表も損益計算書も井上先生には働く人や関わりを持つ人に喜びをもたらす喜働貸借対照表であり、喜んでもらえるバランスシートこそ真の会計学の元だと考えて居られたと存じます。

私も社会人として一人前に経営に対処できたのも井上会計のふれあいの賜物と感謝致して居ります。

私は昭和38年に上場企業の会社再建をまかされ、その再建に全力を注いだことがあります。

当時で累計36億弱の大赤字の船用エンジンメーカーで、私自身技術者でないためエンジンそのものの構造に全く無知であり、全権を任されて遂方に暮れたものでした。

その会社が伝統のある会社であったため、本社の建物は立派で役員も有名国立大学卒で私のような若造が入る余地はない状態でありました。

私はそこで再建策を作る上で実態の把握なくして再建はできない。そのためには働いている現場の職員一人ひとりに協力を得、釘一本把握しなければならぬと思い、3週間現場の職員の一人ひとりと安いホルモン料理に焼酎を飲みながら啓発を続け、そのことこそ再建の第一歩だと職員一人ひとりを説得したことを思い出します。

その実態に基づき再建案を作り、経営側に提示し、全役員の退任とそれに伴う体制の確立、全体的意思統一を図ったのですが、その後再建でき今やその会社は世界の船用ディーゼルエンジンメーカーで世界に冠たる企業に育つことができたのです。

思い起こせばその元こそ井上先生の私に教えた喜働会計学そのものであったと思えてなりません。

私は日頃から経営というものは、植木鉢のようなものだ。植木が伸び伸びと育ちうるのは、植木鉢の底、水口にあると常に思っています、そのことが人々に植木を通して喜びを与えている元だと存じます。

井上先生は今思えば植木鉢の植木のような健全で自然で透明で喜びを感じる会計、水捌けの良い植木鉢そのものであったと存じます。

私は偶然、母校の理事長に就任しましたが、今こそ、生き生きとした植木鉢のように流れの良い植木鉢、そしてどんな人でもあの植木鉢の植木を見たいと言われるような大学を形成し、将来に資したいと存じますし、そのことが井上先生への恩返しだと存じて居ります。

寄稿に際し、井上先生を思い浮かべ記して見ました。

最後に、中央大学公認会計士会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。

矢部浩祥先生を偲んで



故 矢部浩祥教授

中央大学商学部教授
間 島 進 吾

2008年12月6日、私はゼミの学生と共に福岡大学のインター大会に出席しておりました。そこに思いもかけない矢部先生の訃報が入りました。俄かには信じがたいことでした。いつも穏やかな表情の先生のお顔が浮かびました。

矢部先生と初めてお会いしたのは私の20代前半、共通の師であった中西旭先生の監査の仕事のお手伝いをした時でした。矢部先生は大変几帳面でやさしい方で、私は先生を先輩として、また兄のように尊敬し慕っておりました。

大学院が終わりに近づいた頃、私は将来について迷っていました。このまま大学に残るべきか、あるいは会計士の道に進むべきか。その時最も身近におられ、信頼申し上げていた矢部先生に相談に乗っていただきました。監査論は監査実務が大事だから、そちらの方に専念し、しかるべき時が来たときに大学に戻るといふ考え方もあるのではないか、という助言をして下さったのでした。それで私の迷いも吹っ切れて、公認会計士としての仕事に邁進するようになりました。それから数年後、米国に出発し31年に及ぶ海外生活を送ることになりました。

1980年前後であったと思いますが、私の米国での仕事も一応軌道に乗ってきた頃、矢部先生が一年の予定で留学先にアメリカを選ばれ、ニューヨークにやって来られました。穏やかに優しく

笑うお顔は少しも変わっておられませんでした。もう随分昔になってしまったので、詳細は覚えていませんが、ニューヨークが随分気に入られ、1年の予定を2年近くに延ばされました。その際、アパート探しのお手伝いや、家具であったか、台所用品であったか、調達のお手伝いをしたような記憶があります。

そのようにアメリカがお気に召した為だと思のですが、ご息子が留学される段になって、やはりアメリカという地を選ばれることになりました。勉強されたのはニューヨークと境を接するニューイングランド地方でしたが、慣れない異国でしっかりと大学を終えられました。この間、何度か息子さんとお会いしましたが、そのことは日本を離れていた私にとって、矢部先生との繋がりを私自身が確認することでもありました。

矢部先生は、環境会計及び環境監査の研究において第一人者でありました。

矢部先生は助手をされていた当時、米国で社会監査の議論が台頭しており、1970～80年代にかけては社会監査を研究されていました。社会監査の中でも中心的なテーマは公害問題でした。現在、マスコミが大きく取り上げている地球環境問題を20年前の1990年代から環境会計及び環境監査の視点から研究され、それに関する多くの本を出版され、雑誌にも論文をお書きになりました。さら

に、学会、政府、日本公認会計士協会、監査法人、企業などに対し積極的に講演もされ、環境問題の重要性を啓蒙すると同時にその研究に専念されて

こられました。このような矢部先生のご尽力が今後の環境会計及び環境監査の領域の更なる進化に大きく貢献することと確信しております。

白門ゴルフ大会参加報告



幹事
伊藤 肇

第19回白門ゴルフ大会が、平成20年11月17日月曜日に埼玉県狭山ゴルフクラブにて快晴のもと行なわれました。狭山ゴルフクラブは、言わずと知れた名門のゴルフ場であり、その1ヶ月前の10月に行なわれた日本シニアオープン（中嶋常幸プロが優勝）と同じ東・西コースのグリーンを利用して参加33チーム、総勢125名の熱戦が繰り広げられました。そのゴルフ大会に我が公認会計士会から三和会長、柏壽幹事長、河合幹事と筆者4名が一丸となって、始まるまでは(?)優勝目指す雰囲気に参加いたしました。

昨年に引き続き、久野修慈学員会会長（理事長）にご参加いただき、今年は常任理事の長内了氏、中山吉史氏、総合政策学部長の横山彰ゴルフ部部长もご参加されました。

プレイは午前8時より、東または西コースよりスタートし、個人戦、同組のベスト3名によるダブルベリア式でスコアを競う団体戦を行ないました。さすがは名門コース、距離のある林間コースと高速グリーンに悪戦苦闘いたしました。開始当初は長袖やセーターを着ていましたが、徐々に気温も上がり、途中からは半袖でも十分なほど穏やかな気候に恵まれました。気温につられチームの雰囲気も徐々に暖かさに包まれていったのです

が、スコアはそれと反比例していきました。午後3時半過ぎには参加者全員がホールアウトしましたが、思い通りにいかなくても名門ゴルフ場と同選手の和やかな大会は充分楽しませていただきました。

プレイ後の懇親会では、長内常任理事の開会の辞があり、続いて久野会長のいつものながらの元気なご挨拶がありました。乾杯は、学員体育会顧問の草野時治氏が行い、歓談となりました。歓談では、お隣の席に座られた方がクライアントの社長さんという嬉しいハプニングがあるなど、気兼ねすることなく、いろんな方と親睦を深めることが出来ました。

表彰式では、個人表彰、団体表彰、ニアピン賞から飛び賞など各賞の発表がありました。我がチームでは、飛び賞の時に盛り上がりおりました。

懇親会の最後は、ゴルフ部OB会会長（飯能GC副理事長）の杉山慎一郎氏の音頭による三三七拍子で豪快に締めいただき、とても賑やかな懇親会も、来年の再会を誓って散会となりました。

今回は第20回記念大会となります。規模も大きくされるようです。和気藹々とした気兼ねしないコンペですので、今回は皆様と共にたくさんの方で参加できればと願っております。

2008年度中央大学公認会計士試験合格者祝賀会



幹事
梶山嘉洋

2008年12月10日に中央大学駿河台記念館において、2008年度の公認会計士試験合格者祝賀会が開催されました。

当年度の公認会計士試験は、受験者数19,736名、最終合格者数3,024名（合格率15.3％）でした。そのうち、中央大学の卒業、在学中を合わせ160名（中央大学公認会計士会調べ）が合格し、全国大学別合格者数第3位という好成績を取めました。

祝賀会は、中央大学総長・学長の永井和之氏、中央大学理事長・学員会会長の久野修慈氏の挨拶に始まり、中央大学商学部長の石川鉄郎氏の挨拶・乾杯、日本公認会計士協会副会長の黒田克司氏の祝辞と大変盛大に開催されました。

祝賀会には、合格者65名が参加し、会場が手狭に感じられるほど、合格者が多くなったなどの印象を受けました。特に、在学生の合格者が39名と、中央大学商学部の現役合格に向けた教育の成果が見受けられました。

初めは緊張の趣きで祝賀会に臨んでいた合格者たちも、歓談の時間には先輩方と分け隔てなく会話をする姿が見受けられ、中央大学という絆で結ばれた公認会計士同士の親睦を深めていました。また、皆一様に合格の喜びに満ちた晴れやかな表情が見られました。

合格者代表挨拶では、商学部会計学科4年生の茶山裕孝君がスピーチを行い、世界的な規模の金融不安による市場経済の混乱の中、公認会計士の使命が特に求められ、合格者が皆一様にこの使命を背負う者であるとの話が印象的でした。また、素晴らしい仲間恵まれ、公認会計士を目指す環境の整った中央大学に入学してよかったとの思いがスピーチから伝わってきました。

合格した諸君にとっては、偉大なる諸先輩方と交わり、改めて合格を噛みしめたこの日が、公認会計士としてのキャリアの始まりであると実感できる日になったのではないのでしょうか。

世界経済の混乱の中、公認会計士への道を踏み出した合格者たちが、立派な公認会計士となり、世界経済へ貢献していくことを願っています。



平成21年中央大学公認会計士会 賀詞交歓会ご報告



幹事
三宅博人

平成21年1月15日(木)、中央大学公認会計士会では賀詞交歓会を開催しました。例年、中央大学駿河台記念館にて、まずセミナーを開催し、その後別室にて立食形式をとっていましたが、今回は少し趣向を変えて、神楽坂にあるフレンチレストラン、ラリアンス(東京ミシュランガイド一つ星)にて着席ビュッフェ形式で開催しました。場所等の新鮮さもあり、特に大勢の若い方たちの参加をいただき総勢65名近くの懇親会となりました。

まず、当会の三和彦幸会長の挨拶を皮切りに、福田眞也前会長(証券取引等監視委員会委員)や多くの公認会計士の先達よりスピーチをいただきました。また、来賓として、増田宏一氏(日本公認会計士協会会



長)、木下俊男氏(同専務理事)にもご参加いただき、激励と感謝のお言葉をいただきました。司会は柏壽周弘幹事長が務めました。

監査法人、会計事務所やポジション等、各々の立場の枠を超えて、先輩、後輩が懇親を交わして、杯を重ね、近況(現在)、思い出(過去)、今後の夢や展望(未来)等について語り合いました。終了時刻になっても、参加者が席を立たないという盛会の内に無事終了しました。特に合格間もない若い方たちにも多くご参加いただきました。

サブプライム問題に端を発する未曾有の経済・金融不況が世界的に伝播する中、公認会計士の果たすべき社会的役割も益々高まっていくことは必須と思われませんが、中央大学公認会計士会一同、公認会計士の使命であるパブリックインタレストの保護を全うし、日本経済並びに国際社会の健全化と発展へ貢献していこうと、新年の気持ちも新たに誓い合いました。

今後とも今回の様にご大先輩から合格間もない若手にいたる幅広い年齢層から大勢の参加を是非よろしくお願い致します。

白門白銀会の報告

会員
川村芳則

いつもこのシーズンになると雪山のことを想いそわそわしてきます。

そんなスキーを通じた仲間同士の会、「白門白

銀会」のことをご紹介します。

ことの始まりは、酒田の齊藤俊勝さんの「月山で滑らないか」というお誘いに、1998年(平成10

年) 4月に増田浩二さん、宮下 怜さんと私がスキーヤーの憧れにも近い春スキーのメッカ月山に集まることになりました。下界ではさくらが散り新緑の季節の頃、月山のスキーシーズンが始まります。雪は重く圧雪なしのこぶ斜面を、みんな見事に滑り、雪面でバーベキューをやり、飲んでまた滑りという実に楽しい時間を過ごしました。

こんなに楽しいことはぜひまたやろう、もう少し仲間を募ってみようということになりました。そのお誘いに星野紘紀さん、吉田京一さんに乗っていただきました。これら常連メンバーでまずは第1回目のスキーツアーを白馬・八方で1999年1月に実施しました。

八方尾根の頂上からこぶ斜面の兎平、黒菱平は上級者でも手こずる難所ですが、皆見事に滑走し、おまけに1998年の長野オリンピックの女子滑降コースも全員制覇しました。

また、赤白のワインをゲレンデに持ち込み雪上でのワイン会は、渴いた喉と疲れた身体に心地よく溶け込んで「こりゃやめられない」と当スキー会の恒例行事となりました。

ホテルに帰ると、温泉が待っています。人のいない頃を見計らって、温泉風呂の中でビールを持ち込んでの雪見酒などまさに至福のときです。そして、部屋に帰ってからも、飲んで食べて、まったく疲れを知らないメンバーに恵まれました。そして帰る頃になると、「さて来年はどこでいつごろやるかね」という話になります。

2000年2月にはニセコにて開催、このとき本橋信隆さんが初参加。仕事を切り上げ途中での参加で、ビジネススーツ姿で駆けつけてくれました。

会の結成から早くも10年以上経ちました、記憶の残っているうちと思い、2001年以降の開催地などをまとめてみました。とにかく、毎年続いているのがすばらしいと思います。メンバーの相性の良さとはやはりスキー好きが集まっているからなのでしょう。

2004年2月の苗場宿舎には、川北博先生が特別に参加され、この会を「白門白銀会」と命名して下さいました。また、2003年2月には、若手メンバーに招集をかけた結果、吉井敏昭さんが参加し



てくれました。そして、注目すべきは海外遠征で、2002年にはニュージーランドのクィーンズタウン、2007年にはカナダのウィスラー・ブラッコムに行っています。

13年2001 2月16～19日：

蔵王 若松屋

14年2002 1月25～27日：

志賀高原 志賀高原プリンスホテル

14年2002 8月4～11日：

ニュージーランド クィーンズタウン

最初の海外遠征(増田、星野、齊藤、宮下、吉田、川村)ヘリスキーで新雪を堪能
未踏のChuoCanion(我々が命名)を無事滑走

トレブルコーン、リマーカブルズ コロ
ネットピークなどのスキー場を滑走

15年2003 2月24～27日：

越後湯沢 ホテルスボーリア湯沢

15年2003 4月4日～6日：

八甲田山 増田さん、宮下さん参加

16年2004 2月6～8日：

苗場 苗場プリンスホテル 川北先生特別参加

7年2005 2月4～6日：

志賀高原 丸池観光ホテル

18年2006 2月3～5日：

安比 安比グラントホテル

19年2007 2月：

カナダ ウィスラー・ブラッコム：増田さん、宮下さん、吉田さんが第2回目の海外遠征に参加

20年2008 2月16～18日：

志賀高原 志賀高原プリンスホテル

さて、メンバーについて一言。

川北博先生：高齢でありながら昔取った杵づかで見事な美しいフォームの滑走。また後輩を叱咤激励し、普段お聞きできないような貴重な体験談をお話し頂き宴会でも大活躍。

増田浩二さん：年間滑走日数は25日を越えるほどのスキー愛好者。健脚で向上心があり、「もう年でだめだ」といいながらも、蔵王横倉の壁（最大斜度38°）を滑走。スイス、カナダなど世界の主要スキー場も走破。スキー技術向上には一番熱心で、毎年上達の腕前。

星野紘紀さん：新潟県長岡出身のスキープレーヤー。雪国育ちだけあって雪面の捉え方が上手く、堅実な滑りのスキーヤー。最近滑りに力強さが加わったのは筋トレの成果。お酒は嗜まれる程度ですが、たくさんつまみを持参して下さる宴会の陰の立役者。

齊藤俊勝さん：この人がいなければこの会はあり得なかったという会発祥の恩人。山形県酒田市の地の利を生かし、年間滑走の回数は数知れず。50歳で始めたスキーにもますます磨きがかかるが、それ以上に、カナダでの大転倒や湯沢でのぎっくり腰などとにかく話題の中心人物。

宮下怜さん：監査法人の札幌勤務時代にスキーをやりまくったとの伝説。ゲレンデでのワイン、風呂上りのビール、食事時の日本酒、歓談のウイスキーなど何でもござれの酒豪ですが、あれだけ飲んだのに何でそんなに元気に滑れるのか不思議なくらいの健脚で、スキーに来たら必ず全山滑走を目指すスキーヤー。



吉田京一さん：スキー合宿の前日までに山入りし、帰る日は伸ばしてもう一日滑っていくというタフなスキーヤー。スキーだけではなく鮎つり名人でもある遊び人。お酒にも減法強く、これまた健脚プレーヤー。カナダ ウィスラーでは、斜度40°超のこぶ斜面ウィスラーボールを滑走。

本橋信隆さん：2月の監査の忙しい時期に、仕事もこなしスキーもこなしというタフな精神と肉体の持ち主。最近ロードバイクを始められたとか。筋肉増強で、すべりにも一段と磨きが掛かっている。

吉井敏昭さん：会計士協会の仕事もされ多忙にも拘らず熱心な参加で腕前も向上。私より後輩で貴重な存在。次回の苗場合宿には、家族で参加予定。

私は、高校1年でスキーを始めてかれこれ40年のスキー暦、ただ、早く滑れば良いという程度のかつとびスキーヤーでしたが、少しだけ基礎スキーを習い真面目にスクール通いをし、何とかまともに滑れるようになったものの、最近は筋力の衰えを感じています。

雪上のワイン会のワイン運びは私の係りです。最近では、リュックのワインを早く軽くしたいということなのか、ワイン会が早く始まる傾向にあります。ほろ酔いのスキーヤーに事故がないように簡単な技術指導などもし、少しでもメンバーのスキー技術が向上できるように心がけています。

雪山の映像や写真を見ると「スキーをやりたい！」と無性に思います。そして、白門白銀会のメンバーとそろって滑り、飲んで騒いで楽しいひと時を過ごしたいものだとか心から願っています。



公認会計士試験合格体験記



商学部4年
中村 智子

私は、高校生の時から公認会計士になることを目標として勉強を続けてきました。今年度、公認会計士試験に合格することができその喜びは他に替えがたいものでした。

しかし、受験生活は想像以上に厳しいもので、何度もやめたいと思いました。それでも、最後まで続けることができたのは、私の持つ会計士への憧れと諦めたくないという思い、そして多くの方々々に支えていただいたおかげだと思います。諦めず最後まで努力すれば合格に結びつく試験だと感じました。

受験生活の中で、順調に勉強が進む時期もありましたが、成績もなかなか伸びず、この先自分は本当に合格することができるのか不安になった時期がありました。その時、相談に乗っていただいた講師の方に“自分らしく”やりなさいとアドバイスをいただきました。当時の私の勉強は、自信が持てず不安の中で人の真似をして、納得のいく勉強はできていませんでした。

その後は、霧が晴れたような気持ちで、自分が思うように、自分を信じて勉強することができま

した。その結果、勉強をすることが楽しくなり、徐々に自分自身に自信が持てるようになりました。さらに、試験会場では後悔なく、絶対合格できると強く思うことができました。私の受験生活は自分を大きく成長させてくれたと思います。

公認会計士試験の合格はゴールではなく、スタートです。ここから、自分が目標とする会計士になるために常に満足することなく、受験生活で学んだことを生かし語学力・専門的な能力等自分に厳しく向上する気持ちを忘れないことが大事だと思います。

そして私は、試験を通して自分は多くの方々を支えられていることに気づきました。中央大学の先生方、経理研究所の講師の方々には、熱心に時には厳しく指導していただき、精神面においても支えていただきました。また、駿河台記念館で勉強していた仲間とは、ライバルでありながらも、わからないところは教え合い、辛い時には励まし合うことができ、みんなで高め合うことができました。今まで支えてくださった方々に本当に感謝したいと思います。ありがとうございました。

公認会計士試験合格体験記



2004年商学部卒業
鈴木 秀 総

私は2008年、卒業後5年目にして公認会計士試験に合格した、自他共に認める劣等生です。在学中は、経理研究所に所属するわけでもなく、体育連盟レスリング部に所属しつつ会計学をかじっ

て過ごして参りました。

そんな私が何故公認会計士を目指すようになったのか。

それは私の会計学の師・北村敬子先生との出会

いでした。公認会計士とは言わないまでも何か資格を取り、ありきたりには就職したくないと思っていた頃にゼミの募集が始まり、とりあえず有名な先生の下で鍛えられれば何か答えが見つかるだろうという、大変短絡的な発想で面接の門を叩きました。

その面接で、北村先生に「あなたはレスリングの練習もして、会計学の勉強もして、うちのゼミについて来れるの?」と言われました。今ならばその答えは完全にNOであることがわかります。しかしその頃の私には、NOと思うどころか、「悔しい、こうなったら会計士になってやる!」と思う若さがあり、ゼミへの加入も何とか認めていただき、公認会計士受験の一步が始まりました。

ただ、そんな大風呂敷を広げた割には、在学中は四六時中勉強するという習慣が身に付かず、周りの必死な受験生に比べて明らかに努力が足りていませんでした。

一方、レスリング部に所属しておりましたので、選手としては二流・三流であったものの、その立場を捨ててまで受験勉強に励むわけにはいきませんでした。ここでも私はレスリングの師・飛田義治監督と出会い、大きな影響を与えられました。私は高校時代からレスリング部でしたが、大学には一般入試で入学しましたので、本来スポーツ推薦でしか入部できないレスリング部には入部できないはずでした。しかし、飛田監督は快く入部を認めてくださり、様々な貴重な体験をさせてくださいました。

具体的な体験の内容は、誌面の都合上、割愛いたしますが、北村ゼミとレスリング部では、受験勉強において欠かすことのできない共通のものを学びました。

それは、「継続性」と「粘り」です。

私は、合格までに6年かかっているため、このような偉そうなことを言える立場にはないのかも知れません。しかし、だからこそ周りにいた人間の凄さを実感し、自分に足りないものは何なのかと冷静に考え、この2つの言葉が出てきたのだと思います。

やはり優秀な人間・強い人間は、同じことを継続的に、かつ粘り強くこなしていると感じます。毎日勉強・練習していても、時には投げ出して遊びに行きたいが、試験・試合があるからそれを我慢しなければいけないときがある。そして、本番においては結果が欲しいから、どんなにピンチでも最後まで粘り通して、答案用紙を真っ黒にし、攻めの姿勢を崩さない。これを実践できている人間に感動させられてきましたし、自分もそうありたいと思ってきました。学生時代にこの2つの言葉の重要性を学んで、この度それを結果に結び付けることができ、北村ゼミ・レスリング部にいて良かったと、心の底から思いました。

ただそうは言っても、これまでそのように取り組んでいるのに結果がついてこない時期もありました。脳ミソに汗をかくような、逃げ出したくなるような緊張感の中で結果を出すには、多かれ少なかれ「運」の要素も絡んでいるように感じます。つまり、合格者が3,000人いたら、3,000通りの合格方法があり、それぞれの苦労と人間模様があるのだと思います。

今もお、受験勉強に励んでいる仲間が私にはいます。彼らはきっと、同じことを感じているはずで。だから、合格はたまたま1年だけ私の方が早かったけれど、2009年以降彼らと同じ業界で働くことを夢見て、私も引き続き精進してまいります。

この先、今まで以上の努力が求められ、大変な日々が続くはずで。そのことを自覚し、ピンチのときには「継続性」と「粘り」に、「会計士は一生勉強、楽しい仕事は楽じゃない」という先輩会計士の感動的な言葉を加え、地道に誠実に乗り越えて行きたいと思う所存であります。

最後に。

6年間我慢し続けてくれた父ちゃん母ちゃん、おばあちゃん、姉弟、そして15年に渡り私たち家族を癒し続け、8月の本試験2週間前に旅立った天国の可愛い愛犬・吾朗、本当にありがとう。合格してからでさえ、ちゃんとお礼をできてなくてごめんね。この場を借りて、感謝の意を表すとともに、あなたたちにこの合格を捧げます。

公認会計士試験合格体験記



2007年商学部卒業
森田昌宏

はじめに、受験生活を送る間にお世話になった中央大学・CGSAの先生方、経理研究所の講師の方々に深く御礼申し上げたいと思います。また、共に受験生活を過ごした友人、色々なアドバイスをくださった先輩方、すべての面で支えてくれた家族にも感謝しています。

受験生活を振り返った時、一番記憶に残っているのは平成19年度の合格発表後から何ヶ月か経った時期の事です。私は大学3年時に初めて会計士試験を受験しました。受験回数を重ねるたび、周囲の友人が合格していき、平成19年度の合格発表後は数人しか知り合いが残っていませんでした。「なぜ自分は不合格だったのか」、「合格者と自分で過ごしてきた1年間は何が違ったのか」など、自分自身に問い続ける毎日でした。しかし、受験生活を過ごす間にはその答えはわからず、とにかく受験勉強を頑張るといふことしかできませんでした。会計士試験に合格した今、やっと答えがわかったような気がします。私にとって会計士試験は単に学力を問う試験ではなく、人間的な成長をさせてくれる試験だったのです。不合格だったことで、既に合格した友人たちが様々なサポートをしてくださいました。先輩方にもたくさん応援していただきました。経理研究所の講師の方々には勉強面だけではなく、社会人として必要な心構えも教えていただきました。家族は経済的な支援に加え、不合格となっても「来年こそ頑張るなさい」と精神面でも支え続けてくれました。私の受験生活には常に周囲の方々の支えがあったということ

です。そのことに気づかないまま合格しても、受験生活で得るものは少なかったと思います。今では何度も経験した不合格が貴重な経験だったと感じています。平成19年度の不合格は、学力をつけることに加え、人間的に成長するためのチャンスを与えるものだったのです。

平成20年度合格発表で合格したとわかったとき、嬉しいという気持ちよりもほっとした気持ちの方が大きかった気がしています。合格したことで、少しは受験生活を支えてくれた方々へ恩返しになったのではないかと考えています。

長かった受験生活を終えて思うことは、不合格を経験することは決して悪いことではないということです。確かに、短期間に精一杯の努力をし、1度で試験に合格するという事は素晴らしいことです。短い期間で私にはできなかった程の努力をしたということですから、尊敬できることです。しかし、私は1度の受験で合格することがすべてだとは思いません。不合格になることが人間の価値を下げることはありません。むしろ不合格になることで学ぶことは多く、人間として大きくステップアップできると思います。これから受験する方々も、不合格を経験することがあるかもしれません。ですが、決して後ろ向きにならず、頑張っしてほしいと思います。

最後に、受験生活を支えてくださった方々に再度御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 20 年公認会計士試験 出身大学別合格者数

1 位	(1)	慶應義塾大学	375 名	7	(8)	一橋大学	93
2	(2)	早稲田大学	307	8	(10)	立命館大学	85
3	(3)	中央大学	160	9	(4)	神戸大学	83
4	(7)	東京大学	114	10	(9)	京都大学	82
5	(4)	明治大学	110	() は前年順位			
6	(6)	同志社大学	102	他大学の人数は日本公認会計士協会の調査による。			

公認会計士試験合格者（160名）

氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒
宇都宮清臣	商学部	5 年在学	山元 崇	経済学部	H19	浅野 充昌	商学部	H18
楠美 大地	商学部	4 年在学	小松 啓	商学部	4 年在学	陽田 拓也	経済学部	H20
宮田 裕介	法学部	H18	藤田 千里	商学部	4 年在学	中村 智子	商学部	4 年在学
齋藤 絢美	商学部	H20	赤松 秀紀	商学部	H14	古沢 雄斗	商学部	4 年在学
福原 朝峰	経済学部	H20	柳原 匠巳	商学部	H 9	三平 景太	商学部	H15
矢崎 哲也	商学部	H 9	舟越 巳紗	経済学部	4 年在学	大川 春樹	商学部	H18
坂井 拓也	商学部	H19	飯島 康	商学部	H20	立花 裕士	理工学部	H18
荒木 優	商学部	4 年在学	加藤 有香	法学部	H15	日下 奏	商学部	4 年在学
梅澤 薫	商学部	4 年在学	武田祐太郎	商学部	3 年在学	横松 篤志	文学部	H13
後藤 亮太	商学部	4 年在学	飯島 正太	商学部	H20	島津 琢実	理工学部	H 9
佐藤 優樹	商学部	H20	呉 晃一	商学部	H19	横元 康二	商学部	H20
本田 哲也	商学部	H15	佐久間正通	法学部	H 5	岡部 達也	商学部	4 年在学
川畑 利之	経済学部	H11	羽田 伸治	商学部	H20	鈴木 政仁	商学部	4 年在学
中澤 範之	商学部	H20	金子 美咲	商学部	4 年在学	田中 雅之	理工学部	H15
山田 仁徳	商学部	4 年在学	園田 裕輔	商学部		中村 辰也	商学部	4 年在学
吉田 幸大	経済学部	H20	藤元 良	商学部	4 年在学	成田まどか	商学部	H14
橋本 高典	商学部	H15	新免 未理	商学部	4 年在学	古賀 祐一	商学部	H14
有泉 誠	経済学部	H15	武見 知	理工学部	H16	高橋 和孝	商学部	4 年在学
窪田 直樹	理工学部	H13 中退	飯塚 弘明	商学部	H 4	塚本 恭介	商学部	H20
新関 賢治	法学部	H19	布施 恭祐	商学部	H20	齋藤 恵吾	商学部	H20
大友 浩平	商学部	H20	川上 留美	商学部	H18	倉持絵里子	商学部	H17
佐藤 喜大	商学部	H19	長崎 浩美	経済学部	H11	高橋 健太	商学部	H19
千々石 寛	理工学部	H12	北條裕紀子	商学部	H15	野地 洋平	経済学部	H16
田沼 翔	商学部	H20	茂木 久裕	商学部	4 年在学	星野 光城	商学部	4 年在学
丸田 力也	商学部	H20	篠田 友彦	商学部	H20	伊澤 紀彦	経済学部	H20
東 和宏	商学部	H20	篠田 量史	商学部	H20	小島 慎一	商学部	H18
安本 拓樹	商学部	H20	千葉 憲一	商学部	4 年在学	高橋 巧	商学部	H18
鶴田 裕子	商学部	H16	舟橋 和	商学部	H16	林田 展幸	商学部	H15
新井 陽子	商学部	H20	保木本 彩	経済学部	H17	木村 覚	経済学部	H14
加藤 寛司	商学部	H15	近藤 一輝	法学部	4 年在学	佐藤 大	商学部	H14
熊谷 稔	経済学部	4 年在学	中原 義則	商学部	H18	苗村 俊	商学部	H18
小林 久洋	商学部	4 年在学	堀田 恵	商学部	H20	長山雄一郎	商学部	H19
樋口 清	商学部	H19	湯谷 周平	商学部	H17	野口 志紀	商学部	4 年在学
福島 恭子	商学部	4 年在学	篠原 正春	商学部	H17	早津 弘史	商学部	H3
三浦 仁	商学部	H18	西脇 桂介	商学部	H19	森田 昌宏	商学部	H19
小田部真司	商学部	4 年在学	平沼 昌幸	商学部	H19	伊藤 智英	商学部	H17
西川 直澄	商学部	6 年在学	上田 翔太	商学部	4 年在学	須藤 寿彬	商学部	H19
青山 充宏	商学部	H18	大石 正樹	商学部	H16	松本 篤	商学部	4 年在学
大貫 心	経済学部	H19	茶山 裕孝	商学部	4 年在学	森野 道治	商学部	H15
加藤 康正	商学部	H12	池内 政仁	商学部	H20	萩原 侑子	法学部	4 年在学
小牧 史典	商学部	4 年在学	調子真名武	商学部	H10	石井 雅彦	経済学部	H14
竹下 大介	商学部	4 年在学	三井 謙	経済学部	H20	石井 康延	商学部	H14

氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒	氏名	学部	在・卒
大島 隆光	総合政策学部	H17	萩原 智也	商学部	H18.	玉井 信裕	経済学部	H16 中退
立石 千佳	商学部	4 年在学	林 瞳	法学部	H19	三角 佳子	経済学部	H13
和栗 夏美	商学部	5 年在学	堀川 貴史	法学部	H17	山口 直孝	商学部	H11
小林佐那子	経済学部	H20	前山 英美	商学部	5 年在学	森合 智明	商学部	3 年在学
福澤 圭太	商学部	4 年在学	大内真之介	商学部	H14	青山 可奈	商学部	3 年在学
宮内 裕子	商学部	H15	鈴木 秀聡	商学部	H16	石川 純輝	商学部	3 年在学
山下 英男	4 年在学	4 年在学	坪倉 秀典	商学部	H16	加藤 裕司	経済学部	3 年在学
石垣 剛	商学部	H16	三上 肇	法学部	H12	佐竹 篤	商学部	3 年在学
太田 耕介	商学部	H15	鳥居 史	商学部	H17	日下部 慧	商学部	4 年在学
早坂 亜衣	商学部	4 年在学	松本健太郎	経済学部	H13 中退	平島 志郎	商学部	3 年在学
城野 泰芳	経済学部	H16	村瀬 健一	商学部	4 年在学			
高橋 祐亮	法学部	H17	児玉 光蔵	商学部	H15			

編集後記

岸 田 靖

今冬は昨シーズンの厳冬とは打って変わって温かい日々が続き、スキー場も早々に雪不足のためクローズとなっている地域も多いようです。すっかり春めいた季節となっておりますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？

昨秋のリーマンショック以後、経済環境を取り巻く状況は過去に例を見ないほどの厳しさとなっているようで、上場会社の破綻も頻発しております。四半期レビューや内部統制監査対応に加え、GCに対する検討など監査環境もさらに厳しさを増していることを実感しておられる先生方も多いのではないかと思います。

今回の「絆」では巻頭において久野中央大学理事長に会計との関わりについてご寄稿頂きました。先生のご経験と共に非常に分かりやすく興味深い内容となっております。

また、大変残念なことに矢部商学部教授がご逝去されました。故人のご功績を偲んで間島教授に追悼の思いをご寄稿頂きました。改めまして矢部先生のご冥福をお祈りいたします。

今回会計士会として初めて参加しました白門ゴルフ大会（学会会及び体育会支部主催）につきまして伊藤幹事にその模様を報告頂きました。また、スキー部の活動状況については川村先生にご寄稿頂きました。毎年、中央大学公認会計士会主催の新年賀詞交換会を開催しておりますが、今回はその模様を三宅幹事にご報告頂きました。

平成20年11月発表の公認会計士試験では300余名の合格者が誕生しました。そこで、当年度の会計士試験合格者の中村さんと鈴木さん、森田さんには恒例の合格体験記をご寄稿頂きました。また、中央大学主催の合格祝賀会の模様については相山幹事にご報告頂きました。

なお、中央大学公認会計士会としてHPを開設する運びとなりました。掲載内容などもこれから充実させていく所存です。併せて会員名簿の更新にも努めております。幹事一同、出来る限り会員諸先生方にとって有意義な活動となりさらに会計士会に入って良かったと思って頂けるよう微力ながら頑張っておりますので何とぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

中央大学公認会計士会 <http://www.chudai-cpa.jp/>

中央大学公認会計士会報 No.15

平成21年3月31日発行

発行人 中央大学公認会計士会会長

三 和 彦 幸

発行所

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5

中央大学駿河台記念館4階

中央大学経理研究所気付